

国語 第5学年 ロボットとの未来について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：ロボットの働きについて文章と資料を結び付けて読み、弱いという語の使われ方と、人との関わりについて考える。性能が低いと決め付けず、事例が何を示すために書かれているかを確認する。C(1)ウ・C(1)オの学習として、ロボットと人との関係への意見メモ。弱いという語の意味、事例と資料、賛成・疑問・条件、自分の考えを記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめていくという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：ロボットと人との関係への意見メモを残す。弱いという語の意味、事例と資料、賛成・疑問・条件、自分の考えを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：弱いという語を悪い性能と同じだと考える。本文にないロボットの能力や効果を加える。これについて、本文の事例、資料が示す情報、書き手の考えを分けて対応させる。写真から確かめられない効果は推測として記す。未来のロボットを創作する前に本文への考えをまとめる。〔知識及び技能〕(2)イとC(1)ウ・C(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：ロボットと人との関係への意見メモは紙に記録できる。弱いという語の意味、事例と資料、賛成・疑問・条件、自分の考えを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：ロボットが人を幸せにすると断定してよいか。

返し：C(1)ウ・オのため、文章が示す範囲と自分の推測を分ける。事例からどこまで言えるかを確認、個人の受け止めや条件の違いも考えに含める。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

